

6. 現地調査の結果

(1) エゾシカの生息状況

現地調査の結果、平成 23 年度は 649 件のエゾシカの痕跡が確認された（表 9）。このうち、食痕が 609 件（94%）を占めた。個体目視は緑岳地区で 3 頭（1 箇所）のみだった。

なお、平成 22 年の現地調査では、262 件のエゾシカの痕跡が確認された。このうち、食痕が 252 件（96%）を占めた（エゾシカによるものか断定できなかった 3 件を含める）。シカ道は 7 件と少ないが、規模（長さや面積）が大きいことに注意する必要がある。

表 9. 地区別のエゾシカ痕跡、希少植物等の確認地点数（平成 22～23 年）

項目	北大雪		表大雪						東大雪		十勝連峰		計	
	平山	ニセイ	黒岳	白雲岳	緑岳	高原温泉	高根ヶ原	トムラウシ	石狩岳	ニベツ	西クマ	富良野岳		美瑛富士
■シカ痕跡	70	69	31	25	35	163	13	59	62	67	154	7	21	776
個体目視	2	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	6
足跡	1	5	1	1	7	9	3	1	2	1	3	0	1	35
シカ道	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	5	0	9
食痕	66	64	31	24	25	154	9	55	58	66	150	2	20	724
フン	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3
■希少植物種	23	15	6	58	79	3	101	8	25	21	5	22	1	367
■その他	9	3	0	0	1	14	1	21	7	15	7	8	7	93
計	102	87	37	83	115	180	115	88	94	103	166	37	29	1236

※ニセイはニセイカウシュツペ山、西クマは西クマネシリ岳
 ※ニセイカウシュツペ山、緑岳、高根ヶ原は任意調査として実施(方法は同じ)
 ※その他の欄はヒグマの痕跡や地点確認ポイントなどの情報
 ※痕跡は重複あり(同一地点で足跡と糞など)
 ※希少植物種の項は食痕の有無とは無関係
 ※西クマネシリ山では食痕の中に角とぎ3件が含まれる

各地区におけるエゾシカの痕跡確認状況と痕跡確認地点の特性を以下に述べる。

- 平山地区**：登山口～第二雪渓にかけて連続的に痕跡が分布し、特に沢沿いの高茎草本群落において多数の食痕が見つかった。一方、平山山頂から文蔵岳に向かう稜線ではほとんど痕跡は見られなかった。
- ニセイカウシュツペ山地区**：登山口～大槍付近にかけて連続的に痕跡が分布し、樹林帯では低木類に、森林限界以上では高茎草本群落において多数の食痕が見つかった。また山頂北側の崩壊斜面でも高山植物（ミヤマイやウスユキトウヒレンなど）に食痕が見つかった。痕跡が見つかった植物は 35 種にのぼった。
- 高原温泉地区**：大雪高原沼めぐりコースのほぼ全域にわたって連続的かつ高い密度で痕跡が分布し、樹林帯では低木類に、森林限界以上では高茎草本群落や低木群落において多数の食痕が見つかった。食痕が見つかった植物は 52 種に上った。
- 緑岳地区**：登山口～第二お花畑にかけて連続的に痕跡が分布し、それより上部では痕跡はまばらだった。エイコの沢で 3 頭のエゾシカを目視した（うち 2 頭はメスで残り 1 頭は不明）。樹林帯では低木類に、森林限界以上では雪田や高茎草本群落において食痕が見つかった。また少ないが、山頂から小泉岳にかけての風衝地でも高山植物に食痕が見つかった。
- 高根ヶ原地区**：この 2 ヶ年で調査した中で、痕跡数はもっとも少なかった。ただし、踏査区間の末端の忠別沼ではエゾカンゾウなどへのまとまった食痕や足跡が見つかった。また、風衝地の中にあ

る湿地の 1 箇所、希少性の高いホソバウルップソウやコマクサなどの高山植物に食痕が見つかった。

■**トムラウシ山地区**：登山口～カムイ天上にかけての樹林帯で連続的に痕跡が分布し、主に低木類と高茎草本群落に多数の食痕が見つかった。またコマドリ沢付近の高茎草本群落でも食痕が集中して見つかった。高山帯では確認地点は限られるが、トムラウシ公園付近のイワイチョウ群落でまとまった痕跡（足跡と食痕、糞）が確認された。また、南沼付近には明瞭なシカ道が確認された。

■**ニペソツ山地区**：痕跡の確認地点数は少なかったが、登山口～標高 1500m 以下の樹林帯で連続的に痕跡が分布し、主に低木類と高木稚樹に多数の食痕が見つかった。また、山頂直下でもチシマアザミやマルバシモツケに痕跡が見つかった。テントサイト付近の雪田でも食痕がやや集中して見つかった。

■**西クマネシリ岳地区**：登山口から歩道入り口にかけての樹林帯で連続的に痕跡が分布し、主に低木類と高茎草本群落に多数の食痕が見つかった。歩道入り口から始まる針葉樹林内では痕跡はほとんどみられないが、その上のダケカンバ林・低木群落では食痕がやや集中して見つかった。痕跡が見つかった種は 65 種に上った。

■**美瑛富士地区**：登山口周辺の樹林帯で痕跡が点在し、主に低木類に少数の食痕が見つかった。登山口にいたる林道沿いでオスジカ 1 頭を確認したほか、登山口周辺では食痕が多数見つかっているが、登山道を登るにつれて痕跡は少なくなった。調査時は登山口付近から積雪があり、十分な情報が得られていない可能性があるが、前年度の調査でも同じ十勝連峰の富良野岳では痕跡が少なかったことから、十勝連峰の西面ではシカの密度が低いことも考えられる。

平成 22 年度に実施した地区の結果についても以下に再掲する。

■黒岳地区：7 合目～山頂にかけての低木群落や高茎草本群落において多数の食痕が見られた（19 箇所）。一方、黒岳山頂から白雲岳に向かう風衝砂礫地ではほとんど痕跡は見られなかった。層雲峡ビジターセンターのスタッフによると、残雪期（6 月）でもシカの糞が見つかるということである。また、黒岳石室のスタッフによると、平成 22 年は出ていないが、平成 21 年には桂月岳と凌雲岳の間（白水川源頭部）でときどきエゾシカが観察されるとのことである。また、ひがし大雪自然ガイドセンターも、平成 22 年 9 月上旬に行った黒岳で食痕が多く見ているとのことであった（平成 22 年 9 月 9 日の電話取材）。

■白雲岳地区：銀泉台に近い第一花園に痕跡（食痕や足跡）が集中して見つかった（6 箇所）。それより高標高にある類似の高茎草本群落ではエゾシカの痕跡は確認されなかった。なお、白雲分岐付近で確認された食痕（ダイセツイワスゲ）は、明確に判定できなかったがシカによるものの可能性がある。森林パトロール銀泉台事務所のスタッフによると、平成 22 年は高山帯ではシカを見ていないが、第一雪渓では食痕を見る、手前の林道ではときどき出没していると述べていた。また、ひがし大雪自然ガイドセンターによると、9 月上旬に行った銀泉台で多くの食痕を見たとのことであった。同じくひがし大雪自然ガイドセンターによると（平成 22 年 9 月 13 日に訪問取材）、赤岳の第二花園の上で 2009 年にシカを見ている、五色ヶ原はシカの食痕が目立つとのことであった。



エゾシカの痕跡が見つかった銀泉台第一花園の様子（高茎草本群落）

■石狩岳地区：ユニ石狩沢～ブヨ沢周辺で痕跡（食痕や足跡）が集中して見つかった。ブヨ沢では夜間（18:16～翌朝まで、天候は晴れ、無風）に雌成獣 1 頭が現れ、採餌を行う様子が観察された。また、登山道からの観察で、石狩岳山頂近くの雪田～高茎草本群落でシカ道が遠望できた。確認地点数は計 29 箇所だった。ひがし大雪自然ガイドセンターによると、ユニ石狩岳～石狩岳周辺ではシカは生息しているが植生に影響が出るほどではないと思う、クマの掘り返しが目立ちどちらかというとその方が植生に影響があるように思われる、とのことであった。また、同じくひがし大雪自然ガイドセンターによると、ユニ石狩岳方面でシカが（ウラジロ）ナナカマドを食べていたのを観察したことがあるとのことであった。

■富良野岳地区：登山道沿いでは 2 箇所しか痕跡は見られなかったが（うち 1 箇所は明確にシカによるものとは判定できなかった）、富良野岳周辺の雪田～高茎草本群落の 7 箇所で見つかったシカ道が遠望できた。

■然別湖地区：湖岸～白雲山～天望山にかけて、踏査したほぼ全域で痕跡（食痕）が確認された。確認地点数は、5 地区の中で最も多い 45 地点だった。

標高階別では、1200m以下と 1600～1800mにそれぞれ確認地点数のモード（最頻値）が見られた（表 10）。1200m以下はすべて然別湖地区である。然別湖地区の踏査範囲の平均は 926m、それ以外では 1586～1979mだった。然別湖地区以外では、踏査区間の標高分布の最頻値は 1800～2000mだった。エゾシカの痕跡の確認地点の傾斜角では、25～30 度に最頻値があった。全体ではそれより緩やかな 10～15 度に最頻値があった。斜面方位では東向きの斜面（北西～南東）で痕跡の確認地点が多

く分布していた。

水系別では、層雲峡より上流の石狩川水系（層雲峡・石狩川・ホロカ石狩川・ユニシカリ川を含む）が全体の約4割を占めた（表11）。また然別湖・ナイタイ川が次いで多かった（稜線上の地点は複数の水系でカウントしていることに注意）。

エゾシカは風衝砂礫地（エゾマメヤナギ-エゾオヤマノエンドウ群落・コメバツガザクラ-ミネズオウ群落）、ハイマツ群落（コケモモ-ハイマツ群落）の利用はほとんどなく（注. GISの分析ではコケモモ-ハイマツ群落に9箇所確認されていることになっているが、実際にはハイマツ群落内の小規模な草本群落のことが多い）、雪崩地の雪田～高茎草本群落（両者を含めて雪田草原）で痕跡が目立っていた（表12）。また、ほぼ全域が亜高山帯（ササ-ダケカンバ群落・エゾマツ-ダケカンバ群落・エゾマツ-トドマツ群集）に含まれる然別湖地区で痕跡の密度が高かった。

図22～27に各地区におけるエゾシカの確認状況を示した。

表 10. 標高階別のエゾシカ痕跡確認数

標高階別(m)	北大雪			表大雪				東大雪				十勝連峰		計		
	平山	ニセイ	黒岳	白雲岳	緑岳	高原温泉	高根ヶ原	トムラ	石狩岳	ニベソツ	西クマ	然別湖	富良野岳		美瑛富士	
<1000												2	20		2	24
1000-1200	5	3						3			4	2	25		2	44
1200-1400	3	5			3	13		2	6	1	2			1	1	37
1400-1600	3	3	2	1	7	2		2	12	2	3			2		39
1600-1800	1	9	12	5	1		3	1	9	3				5		49
1800-2000		1	5		3		3	3	2	2						19
>2000					1	2										3
計	12	21	19	7	16	15	6	11	29	12	9	45	8	5		215

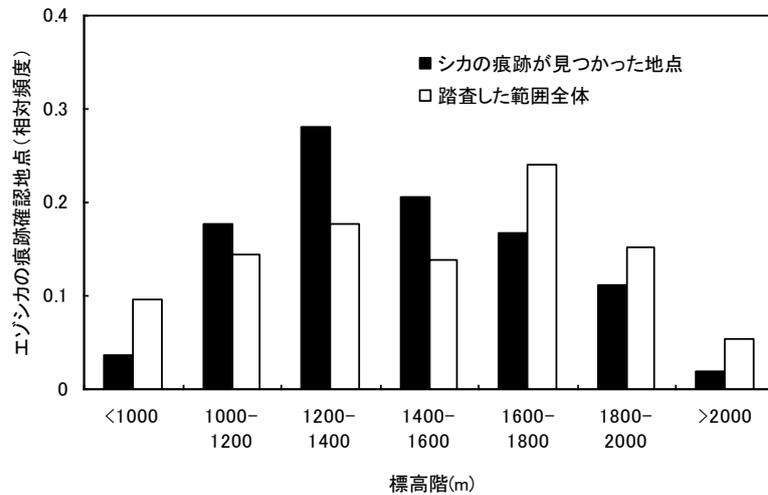


図 19-1. 標高階別のエゾシカ痕跡確認数と踏査地点数（相対頻度、平成 23 年）

図 19-2. 標高階別のエゾシカ痕跡確認数と踏査地点数（相対頻度、平成 22 年）

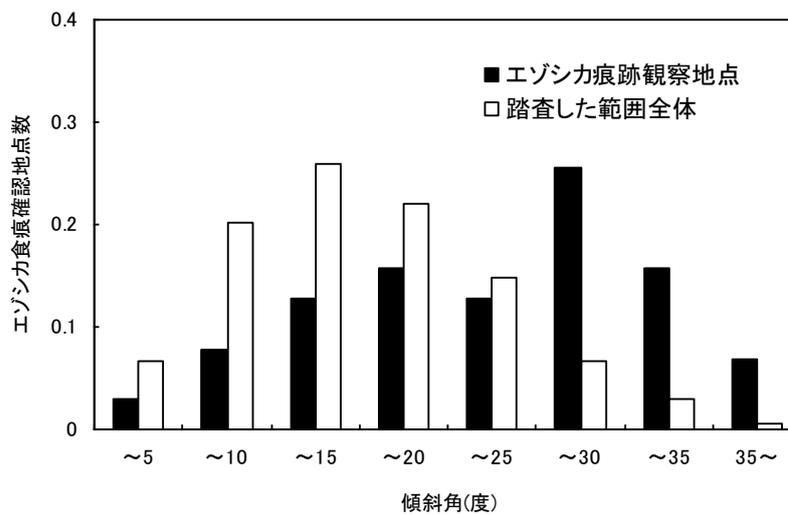
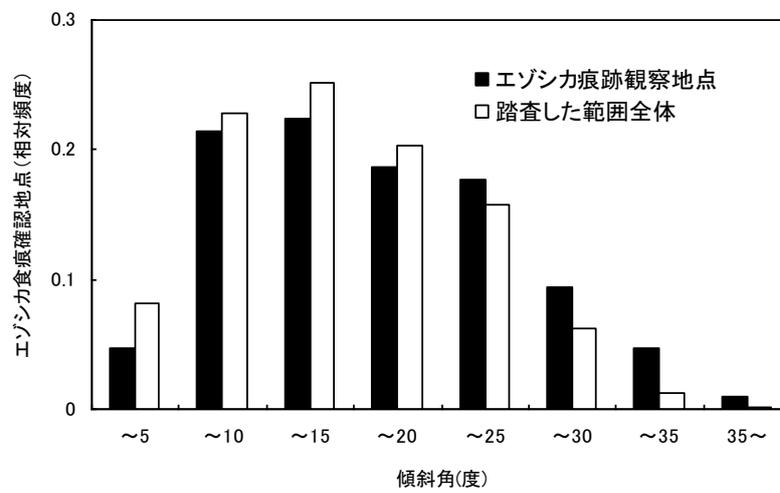
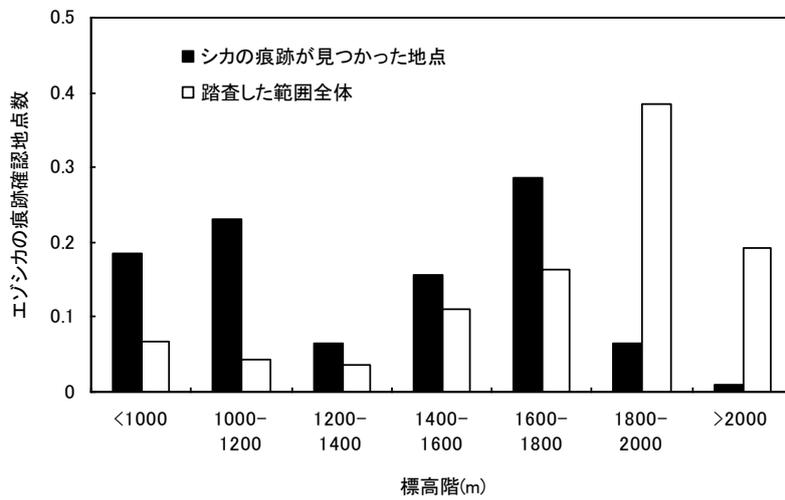


図 20. エゾシカ痕跡確認地点の傾斜角（相対頻度、上：平成 23 年、下：平成 22 年）

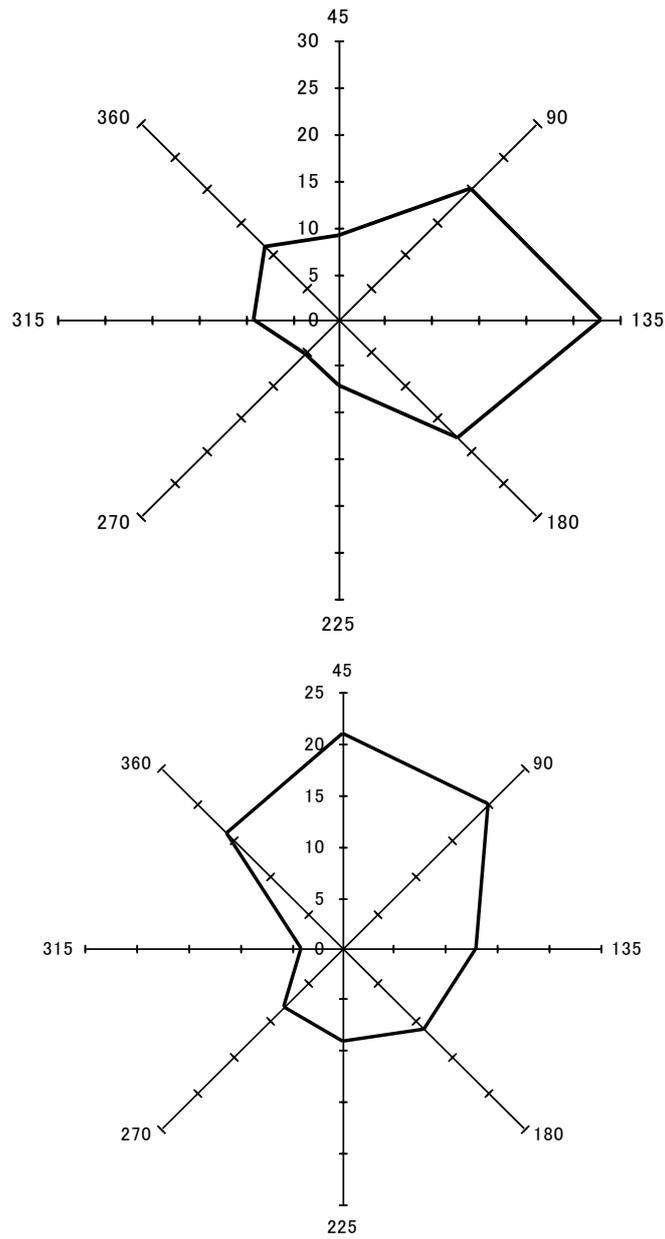


図 21. エゾシカ痕跡確認地点の斜面方位（相対頻度、上：平成 23 年、下：平成 22 年）

表 11. 水系別のエゾシカ痕跡確認数（網掛けは層雲峡以遠の石狩川水系）

水系	北大雪		表大雪				東大雪			十勝連峰		計			
	平山	ニセイ	黒岳	白雲岳	緑岳	高原温泉	高根ヶ原	トムラ	石狩岳	ニベソツ	西クマ		然別湖	富良野岳	美瑛富士
支連別川	11														11
層雲峡			19	1											20
石狩川	1	16		1	16	15	6		4						59
ホロカ石狩川				6											6
ユニシカリ									25						25
留辺志部川		21													21
忠別川								2							2
美瑛川													5		5
富良野川													5		5
布部川													2		2
シーソラブチ川													1		1
トムラウシ川								11							11
三股(音更川)									8	12	9				29
然別湖												45			45
ナイタイ川												33			33
計	12	37	19	8	16	15	6	13	37	12	9	78	8	5	275

表 12. 群落別のエゾシカ痕跡確認数（網掛けは高山植物群落）

植物群落	北大雪		表大雪				東大雪			十勝連峰		計			
	平山	ニセイ	黒岳	白雲岳	緑岳	高原温泉	高根ヶ原	トムラ	石狩岳	ニベソツ	西クマ		然別湖	富良野岳	美瑛富士
コケモモ・ハイマツ群落	1	3	1		6		4	2	8	2	2			1	30
エゾマメヤナギ・エゾオヤマノエンドウ群落				1				1							2
コマクサーイワツメクサクラス										1					1
コマバツガザクラ・ミネズオウ群落								1	2						3
雪田草原		1		1	5				6	1			5		19
高山低木群落													2		2
ツルコケモモ・ミズゴケクラス							1								1
ササ自然草原		1						1	2	1					5
ミヤマハンノキ・ダケカンバ群落			4	3		1									8
ササ・ダケカンバ群落	1		14	1	2	6		4	8	1		24	1		62
エゾマツ・ダケカンバ群落	8	16		1	2	2		1	2	6	3				41
エゾマツ・トドマツ群落	2					4		2	1		1	21		4	35
アカエゾマツ群落					1										1
伐跡群落												3			3
開放水域						1									1
計	12	21	19	7	16	14	6	11	29	12	9	45	8	5	214



エゾシカ足跡（ユニ石狩岳）



ヒグマがアリの巣を掘り起こした跡（ユニ石狩岳）

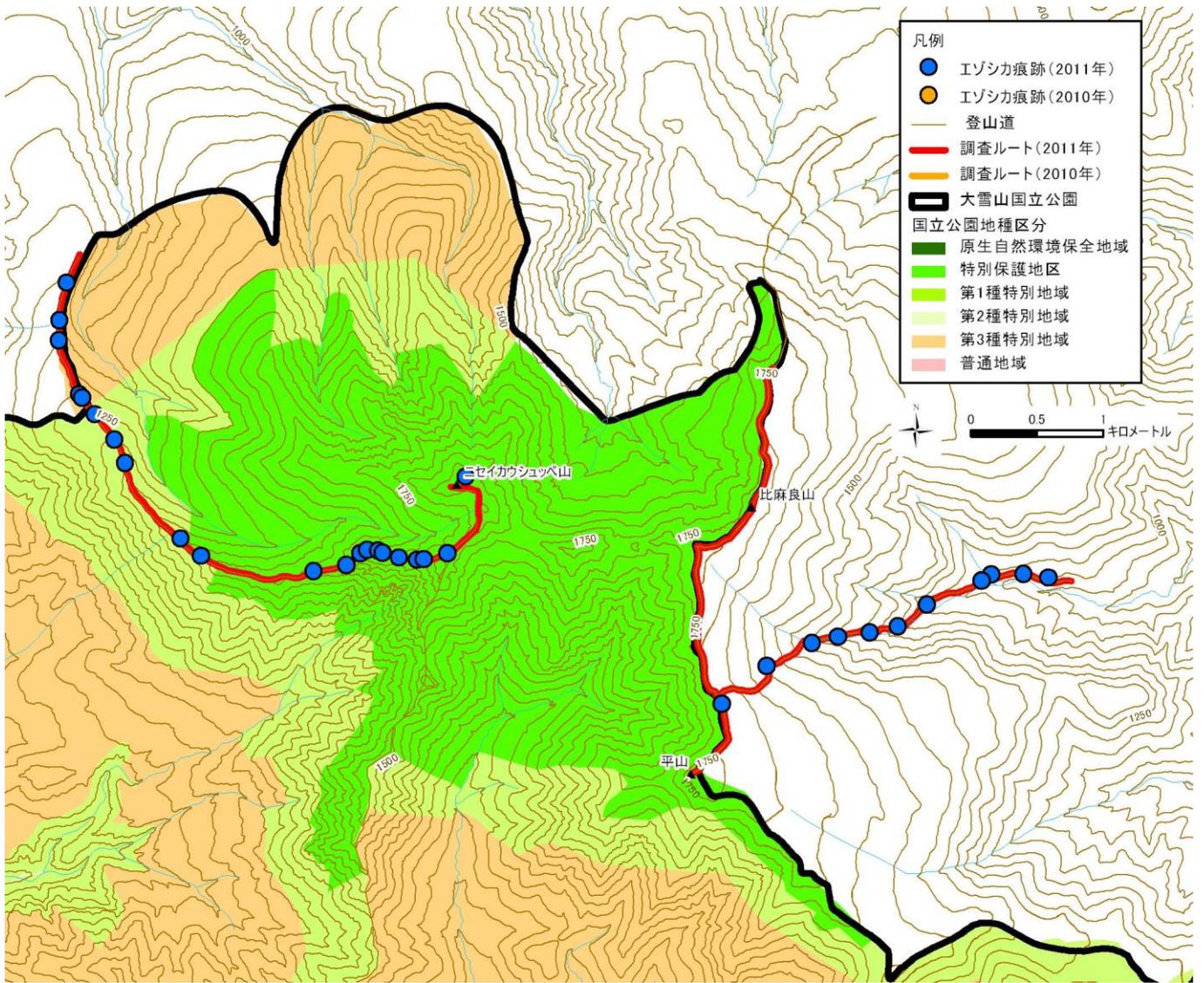


図 22. 北大雪(平山・ニセイカウシュッペ山)におけるエゾシカ痕跡確認位置

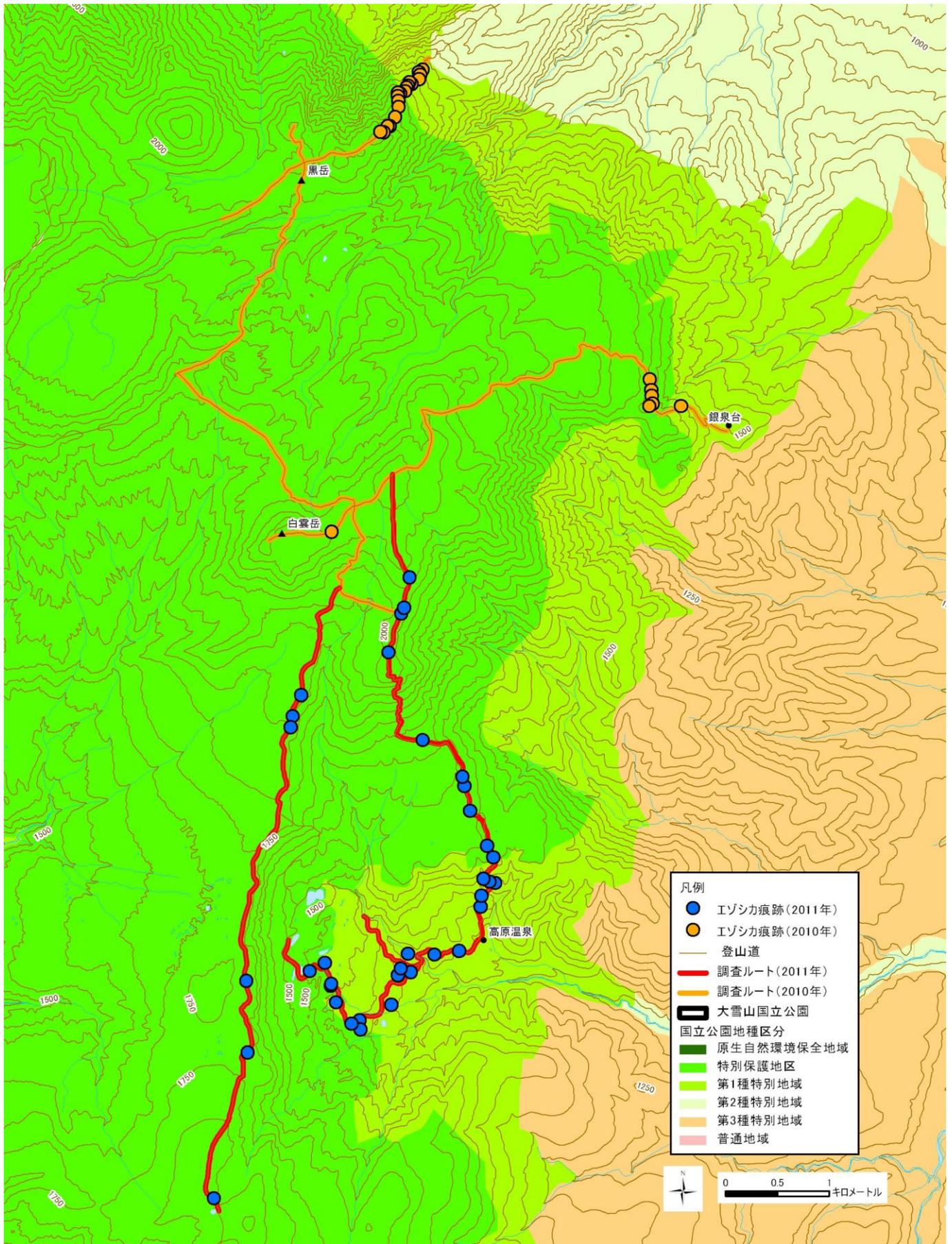


図 23. 表大雪(高原温泉・緑岳・高根ヶ原)におけるエゾシカ痕跡確認位置(平成 22 年実施の黒岳、白雲岳、赤岳の各地区についても表示)

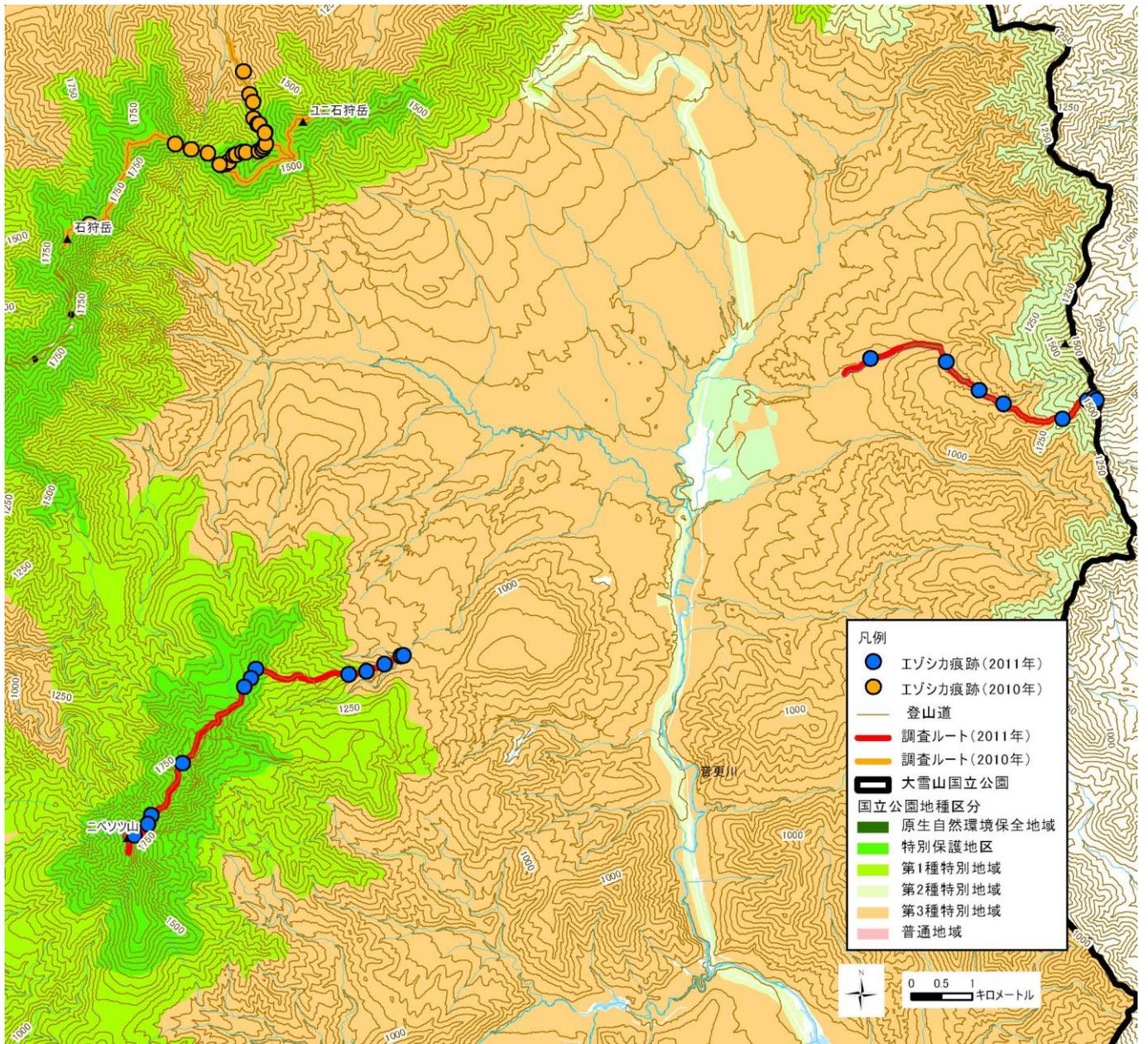


図 24. ニペツ山・西クマネシリ岳におけるエゾシカ痕跡確認位置(平成 22 年実施の石狩岳地区についても表示)

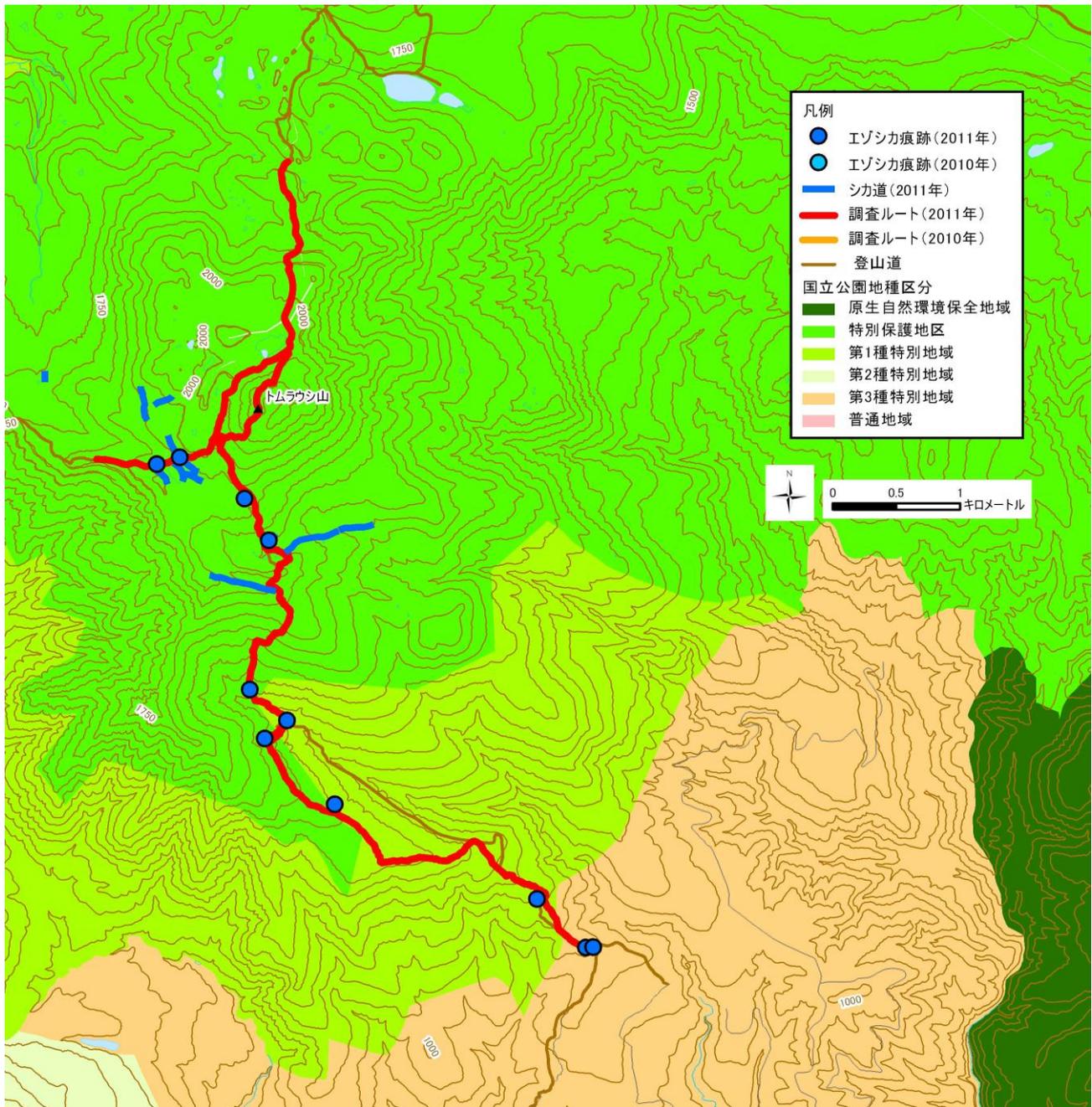


図 25. トムラウシ山におけるエゾシカ痕跡確認位置

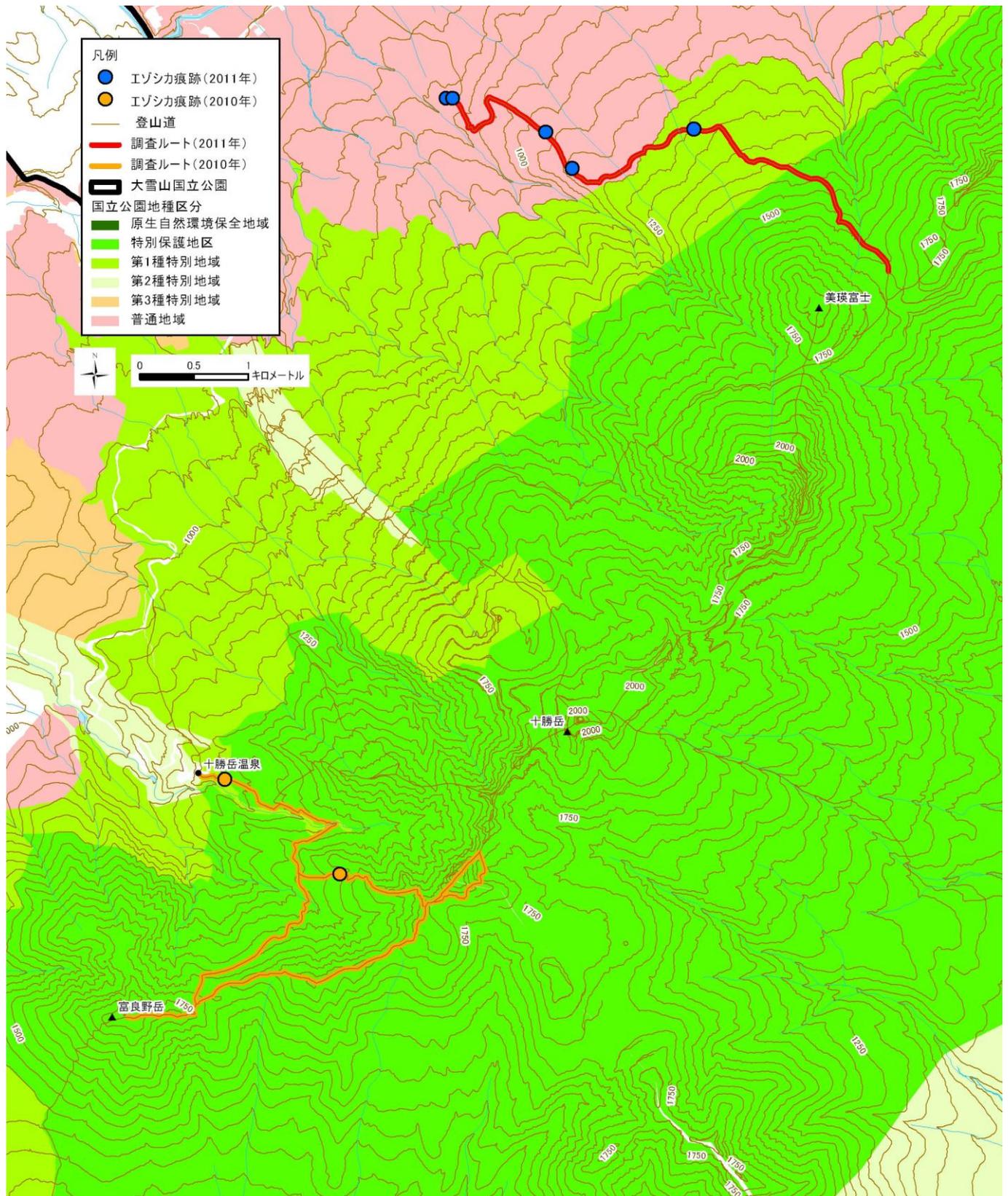


図 26. 十勝連峰(美瑛富士)におけるエゾシカ痕跡確認位置(平成 22 年実施の富良野岳地区についても表示)

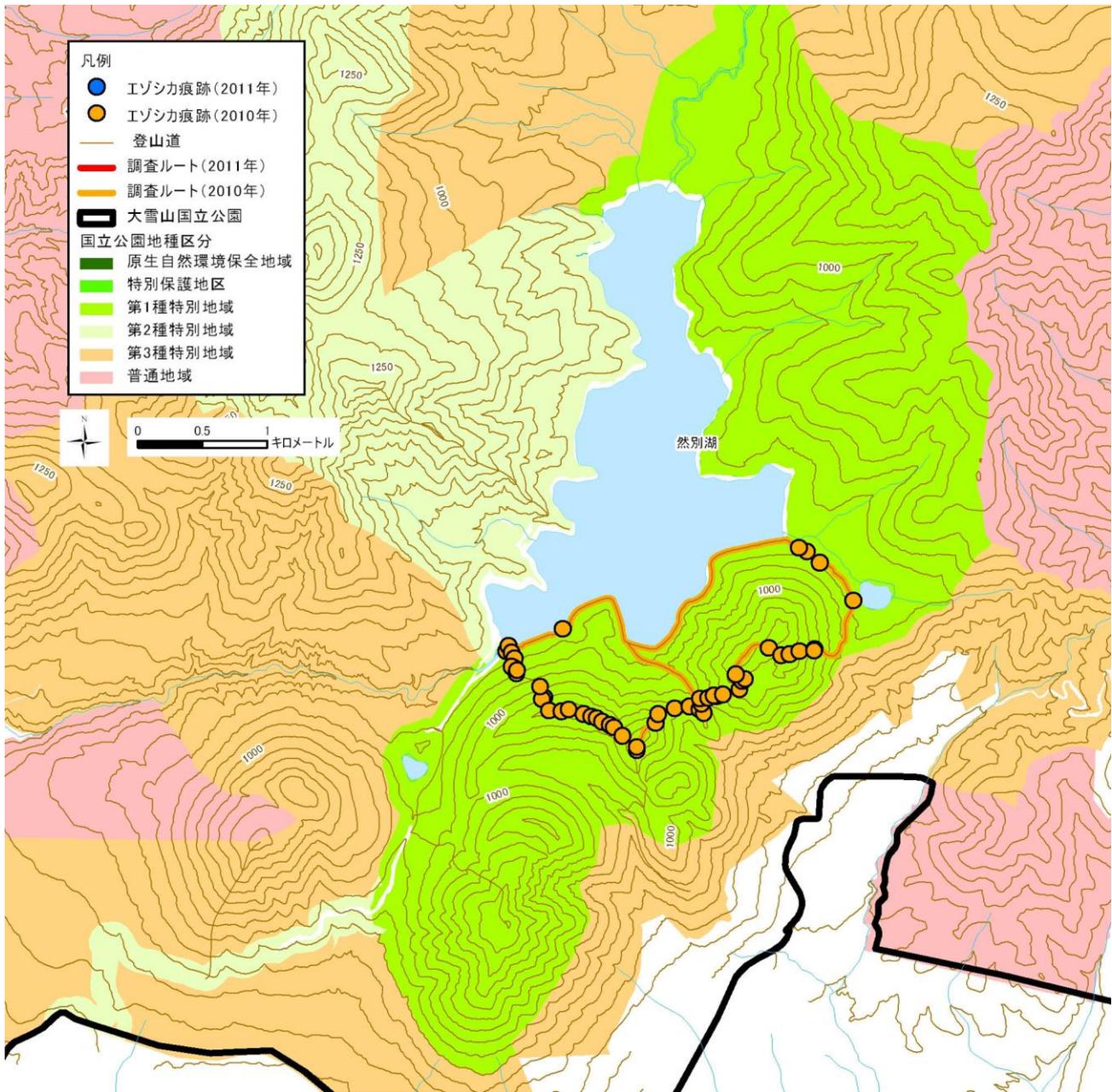


図 27. 然別及び富良野岳地区におけるエゾシカ痕跡確認位置(平成 22 年実施)